

校長室より

第64号

「天空高き」



平成26年10月8日

## 天高く－運動会と楽学祭－

9月6日に第67回運動会がスタートしました。冒頭の挨拶は、あえて英語で、以下のような内容を話しました。

Good morning, everyone.  
I am going to speak to you in English now.  
We are going to have a great Sports Day today.  
We only had a short time to prepare, but we worked hard together and cooperated with each other to make this day possible.  
I hope that you learn today how to enjoy exercising together with your friends.  
I also hope that you do your best in a spirit of fair play. And also, be careful about injury, play safe and have fun. Thank you very much.

皆さんおはようございます。今日は英語で挨拶をします。  
私たちは今日運動会を開催する運びとなりました。短い準備期間でしたが、お互いに一生懸命に、そして協力して準備してきました。  
今日は友だちと一緒に身体を動かすことを楽しんで、またフェアプレーの精神でベストを尽くしてもらいたいと思います。怪我に気をつけ、安全に、そして楽しんでください。

雨が心配されましたが、今年も、私の期待以上に、素晴らしい運動会でした。保護者アンケートの結果も、97%の方々が満足されていました。

生徒の皆さんが、マナーとルールを守り、仲間とともに、一生懸命に取り組み、皆さんの楽しそうな笑顔が、高い評価を受けたのだと思います。

私が評価したいのは、1時間以内に終了した運動会の後片付けです。充実した運動会であったからこそ、お互いに協力してできたのだと思います。



「そうなりたい。そうなると信じる。そのように努力する。そうすれば、そうなる。思えば叶う」

高橋福八（日本の総合履物専門商社会長）

9月19・20日には、第6回の楽学祭が開催されました。

テーマは「Passion～完全燃焼～」。

生徒の皆さんは情熱を持って取り組めましたか。完全燃焼できましたか。

今年の楽学大賞（すべての企画の中で最優秀のもの）は、激戦の末、S1-1の「ジェットコースター」が獲得しました。教室の四角を急角度で曲がってもスピードが落ちることもなく、スリル満点でした。夏休みから制作を開始していましたが、設計者の緻密な計算力と技術力、そして企画力は見事で、ジェットコースターに乗れた人たちは幸運でしたね。

楽ちゃん賞（娯乐的、楽しませる企画の中で優秀なもの）は吹奏楽部が、学ちゃん賞（文化的、学術的色彩のある企画の中で優秀なもの）は書道部がそれぞれ受賞しました。

吹奏楽部はいつもみんなを楽しませる演出で場を一気に盛り上げてくれます。また、今年の書道パフォーマンスは迫力ある筆さばきで多くの観客を魅了してくれました。両部とも日頃の地道な取り組みの成果の一端を披露してくれました。

受賞は逃しましたが、茶道部・美術部・地域文化部・長唄三味線部・英会話部・放送部・家庭部理科同好会の各文化部も日頃の地道な活動に敬意を表します。



## ポジティブ思考でチャレンジ就職試験がスタートー

9月16日から高校生の就職試験が解禁しました。学校推薦で27名の生徒がチャレンジしています。

ある雑誌にこんな記事が掲載されていました。

私が高校生の就職カウンセリングをしていた時に、『先生や親から言われてやる気を失った言葉』として、高校生が話してくれた言葉があります。

「全部落ちたら、どうするんだ？」

「どうせダメなんだから、やめておいたほうがいい」

「まだやっていないの？ どうせやらないつもりでしょう」

など、こうして挙げているだけでも心が痛くなってきます。

「あなたはできない。やらない」が前提となっているこれらの言葉で、やる気などわくはずもありません。「あなたはできるよね。やるよね」という信頼を前提にした伝え方だと、自己肯定感も高まり、やる気がわくものです。

「全部合格したら、どうする？」  
「きっと本番の面接ではうまく話せるよ」  
「あなただったら、自己PRもすぐに書けると思うよ」  
といった、信頼がこもった言葉のレパートリーを増やしていきたいですね。

私たちが子どもに対して、プラスのイメージを持つこと、信頼すること、それを言葉に出して伝え続けることが、子どもの心を動かし、やる気や行動へとつながっていくということだと思います。生徒も皆さんも常にポジティブな思考でチャレンジ！

## 秋の読書週間ー就職試験がスタートー

皆さんは読書週間がいつから始まり、いつ終わるか知っていますか。

それは、10月27日から11月9日（文化の日を中心とした2週間）と定められています。普通、〇〇週間と言えば1週間ですが、読書週間だけは2週間です。できるだけ多くの人に本を読んでもらいたいという願いが込められているのかもしれないね。

読書することを苦手に行っている人がいると思います。次の3つのことを実行してみてください。

- ①自分の好きなこと、興味、関心があること等の本を選ぶ
- ②薄い本や読みやすい本を選ぶ
- ③いつも、手の届くところに本を置く。

今年の読書週間の標語は「めくる めぐる 本の世界」です。

一冊の本があなたを世界・宇宙旅行に運んでくれます。

世界は一冊の本	長田 弘	そこに住む人びとの本が、街だ。
本を読もう。		自由な雑踏が、本だ。
もっと本を読もう。		夜の窓の明かりの一つ一つが、本だ。
もっともっと本を読もう。		シカゴの先物市場の数字も、本だ。
書かれた文字だけが本ではない。		ネフド砂漠の砂あらしも、本だ。
日の光、星の瞬き、鳥の声、		マヤの雨の神の閉じた二つの眼も、本だ。
川の音だって、本なのだ。		人生という本を、人は胸に抱いている。
ブナの林の静けさも		一個の人間は一冊の本なのだ。
ハナミズキの白い花々も、		記憶をなくした老人の表情も、本だ。
おおきな孤独なケヤキの木も、本だ。		草原、雲、そして風。
本でないものはない。		黙って死んでゆくガゼルもヌーも、本だ。
世界というのは開かれた本で、		権威をもたない尊厳が、すべてだ。
その本は見えない言葉で書かれている。		2000億光年のなかの小さな星。
ウルムチ、メッシナ、トンプクトウ、		どんなことでもない。生きるとは、
地図のうえの一点でしかない		考えることができるということだ。
遙かな国々の遙かな街々も、本だ。		本を読もう。
そこに住む人びとの本が、街だ。		もっと本を読もう。
自由な雑踏が、本だ。		もっともっと本を読もう。

## 自転車カギかけコンテスト—まず自分自身から—

9月17日に本校の自転車のカギかけチェックがありました。

中学校で32台中3台(9.4%)で施錠がありませんでした。高校では280台中69台(24.6%)に施錠がありませんでした。

中学では10台に1台の割合で、高校では4台に1台の割合でカギをかけていない状況です。学校内に置いているので、安全であろう、と安心してしまい、このような結果になったのかもかもしれません。



自転車のカギかけの目的は、盗難防止です。これから起きるかもしれない危険(盗難)に対して、事前に対応(カギかけ)しておこうという積極的行動で、「リスクマネジメント」が問われています。

「危機管理」というのは、既に起きた事故や事件に対して、そこから受けるダメージをなるべく減らそうという発想です。つまり、「Risk(リスク)」と「Crisis(危機)」の違いは、危機というのは、既に発生した事態を指しているのに対し、リスクはいまだ発生していない危険を指しています。ここから、「危機管理」と「リスクマネジメント」の大きな違いが見えてくると思います。

いま、私たちに求められているのは、「リスクマネジメント」です。「リスクマネジメント」の特徴は、常に前向きで能動的である、という点です。「リスク」—自転車盗難—は未来に存在し、リスクの要因であるハザード(障害物)—カギをかける—は過去に存在します。それをコントロール(管理)できれば「危機」を避けることができます。

自転車のカギをかける、という行為を面倒がらずに、習慣化してください。毎日の当たり前のことを当たり前に行うことが、「リスクマネジメント」につながります。

## 今年も全国大会へ—模擬国連と国際理解・国際協力の主張コンクール—

第8回全日本高校模擬国連大会は今年度、過去最多となる133校(199チーム)が応募し、82チームが決定。今年も本校から1チーム(S2-1 奈良勇輝君・S1-2 山田真季さん)が予選を見事に突破しました。(8大会中7回出場)

また、第61回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクールにおいても、山口県代表として中央大会(国連大学)にS2-2 石山恵然君が「もしも私が国連事務総長なら、国連で何をすべきか—平等な社会と国連—」という演題で出場します。

どちらの大会も上位に入れば、次はニューヨーク国連本部に行くことができます。世界を賭けて堂々とチャレンジしてください。

### 二十四節気—寒露—

10月8日頃 冷気次第に深まり、草の葉に宿る露も「霜」となることから、「寒露」と呼ばれる。